

I シラバスの目的と活用について

栃木県農業大学校では、優れた農業経営者を育成するため、農業経営に関する専門性の高い知識や技術の修得に向けた実践的教育を行っています。

教科目は、農業生産学部は全学科共通の「共通必修科目」、学科ごとに「学科必修科目」及び自主的に学習できる「選択科目」から構成されています。また、農業経営学部は「学科必修科目」を中心に構成されています。各教科目は学ぶ目的ごとに「技術力養成科目」、「経営力養成科目」及び「社会適応力養成科目」の3つに分類して学習の目的を示してあります。高等学校と比べると教科目数は遙かに多く、授業内容も専門・高度化しており、「何のために何を学ぶのか」という明確な目的意識を持ち、各個人が自発的かつ積極的に授業に臨むことが重要です。

本書は、自発的かつ積極的に学習するための糸口になるものであり、それぞれの教科目の「授業のねらい」や「授業計画」の概要、また実施時間等を記載していますので、「必修科目」と「選択科目」を組み合わせて独自の履修計画を考える際に活用してください。

なお、農業生産学部において「選択科目」の組み合わせに当たって、各学科の教育目標を達成するために必要な教科目について、学科別のオリエンテーション等で説明があります。1年次に不用意な選択をすると2年次の履修に支障をきたすことがありますので注意が必要です。

また、それぞれの教科目の最初の授業には本書を必ず持参し、その詳細についての話を聞くようにしてください。

本書についてわからないことがあれば、指導担当者や教科目担当者に相談してください。

II 教科目の履修について

1 単位制

単位とは学修量を表す言葉で、1単位の教科目は45時間の学修を必要とする内容（一部の実習を除く）をもって構成しています。単位と履修時間、学修時間の関係は授業の種類により本校では次表のように定義しています。なお、本校の1時限（90分）は、履修時間2時間として計算しています。

表に示すとおり、講義教科目と実験・演習教科目については、授業での履修時間に加えて自学自習の時間が含まれます。授業を充実したものにするためには、教室外での自学自習が重要となりますので、予習・復習をしっかりと行った上で授業に臨むようにしてください。

授業の種類	1単位の基準		
	履修時間数（授業）	自学自習時間数	合計学修時間数
講 義	15	30	45
実験・演習	30	15	45
実 習	45*	0	45

* 農業経営学部の現地実習及び先進的経営体実習については、30時間の履修とします。

2 修得単位数

卒業資格の修得には、農業生産学部では、「共通必修科目」、「学科必修科目」、「選択科目」から2年間で80単位以上を履修するとともに、年間800時間以上を履修しなければなりません。農業経営学部では「学科必修科目」を2年間で91単位、2,490時間以上を履修します。（農業大学校履修規程）

農業生産学部 各学科・専攻別の修得単位数は、下表のとおりです。

学科・専攻名		必修科目			選 択 科 目	合計修得 単 位 数
		共通必修 科 目	学科必修 科 目	計		
農 業 総 合 学 科	作 物	29	37	66	30	80単位以上
	露地野菜		37	66	30	
	施設野菜		35	64	30	
	花 き		35	64	30	
	果 樹		35	64	30	
畜 産 学 科			40	69	29	

農業経営学部 いちご学科の修得単位数は、下表のとおりです。

学 科 名	学科必修科目	選 択 科 目	合計修得単位数
いちご学科	9 1	3	9 1 単位以上

3 遠隔授業等の実施

新型コロナウイルス感染症等への対応のため、授業の全部又は一部について対面授業の実施が困難と判断される際には、遠隔授業等（対面授業との併用を含む）を実施する場合があります。なお、遠隔授業等を実施する場合には事前に説明を行います。

4 学習成績の評価、単位の認定、卒業認定

(1) 学習成績の評価は、次によります。

ア 各教科目の単位を修得するにあたっては、授業の出席回数が各教科目の授業計画回数
の4分の3以上を必要とします。なお、遅刻・早退が3回で1回の欠席とします。

（履修時間30時間の科目は通常15回の授業計画です。）

遅刻・早退の扱いは、授業の開始時刻からあるいは終了時刻前の15分以内までとし、
15分を超える遅刻・早退は欠席扱いになります。遅刻・早退は、授業の理解を困難に
するとともに、授業の進行の妨げにもなりますので厳に慎んでください。

イ 講義教科目の学習成績の評価は、教科目担当者が本試験、レポート、出席状況及び学習
態度等により100点満点の評点で成績を評価し、評定を行います。

ウ アを満たしている学生がイの本試験を受験できます。

エ アを満たし、かつ何らかの事情により本試験を受験できなかった学生は、所定の手続
を行った後に追試験を1回だけ受験することができます。

オ 本試験の結果不合格であった場合、学習態度が良好であれば所定の手続きを行った後に、
再試験を1回だけ受験することができます。ただし、講師によって実施しない場合があり
ます。

カ 実験・演習・実習を伴う教科目や卒業論文の学習成績の評価については、「成績考査規
程」の規定に基づき行います。

キ 学習成績の評価は、次の4段階に区分します。ただし、学籍簿には評定で記入されます。

評定	優	良	可	不可
評点	80点以上	60～79点	50～59点	50点未満

(2) 学習成績の評価で50点以上を合格とし、単位が認定されます。

(3) 試験の際、不正行為があった場合、その教科目の単位は認められません。

(4) 卒業の認定は、2年以上本校に在学して学科・専攻別に定められた修得単位数を修得し
た者に、審査会の議を経て行われます。（履修規程）

5 休業日と授業時間

(1) 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。この期間を前期（4月1日から9月30日）及び後期（10月1日から翌年3月31日）の2学期に区分しています。ただし、集中授業は、夏季休業日に配置してあります。（農業大学校規則）

(2) 休業日は、以下のとおりです。

- ・ 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ・ 日曜日及び土曜日
- ・ 季節休業日として校長が定める日
- ・ 校長が特に必要があると認める日

(3) 授業時間は、以下のとおりです。

第1時限	9:00～10:30
第2時限	10:40～12:10
第3時限	13:10～14:40
第4時限	14:50～16:20

6 実習教科目の位置づけ

本校においては、知識と技術を体系的に修得する実践的な学習が求められます。講義で得た知識をもとに、作物の栽培や家畜の飼養を実践し、技術を修得することが大きな目的となっています。このようなことから、実習教科目は重要な位置づけとなっており、総履修時間の半分以上を実習教科目で履修することになっています。実習教科目は、以下の6つに大きく分けられます。

(1) 専攻実習〔農業生産学部〕、専門実習〔農業経営学部〕

基本となる農業技術の修得とプロジェクト学習が中核となっています。プロジェクト学習とは課題解決学習法であり、学生各自が課題を設定し課題解決の具体的な計画を作成、そしてその計画を主体的に遂行することを通して知識と技能を習得するものです。将来の営農計画に基づく農業経営上の諸問題を「課題研究」として設定し、解決する実践的・自主的学習といえます。

(2) 卒業論文〔農業生産学部〕

専攻実習において取り組んだプロジェクト学習や我が家の営農設計を卒業論文として取りまとめます。

(3) 先進的経営体実習〔農業生産学部、農業経営学部〕

先進農家、農業法人等のより実践的な技術や経営方法に触れるとともに、先進的農業者等との関わりや農家生活を体験することによって、農業後継者としての実践的経営能力の向上を目的としています。1年次での必修となっています。

(4) 農業機械基本実習〔農業生産学部、農業経営学部〕

「農業機械基本実習Ⅰ」は必修科目となっており、トラクタの構造と作業機の取り扱い方法を学ぶ農業機械利用の基本的教科目です。「農業機械基本実習Ⅱ」は選択科目となっており、けん引作業機の運転操作技術を修得します。その他に農業総合学科（作物及び露地野菜専攻）、畜産学科の選択科目として「農業機械整備実習」があります。

(5) 農場管理実習〔農業生産学部、農業経営学部〕

時間外の管理実習を通して栽培や飼養等の応用的な知識を修得するとともに、体系的・継続的な実践により技術や技能の定着を図ります。さらに、責任感や使命感を持って主体的に取り組む態度や管理能力の向上をねらいとして取り組む教科目です。

(6) 現地実習〔農業経営学部〕

とちぎ農業マイスター（高い栽培技術を持ち、地域からの信頼が厚い農業者・先進経営体）等のもと、1年を通じて、実践的な技術や経営管理能力を習得するとともに、就農のための農地や施設・機械の取得についても指導助言を受けます。